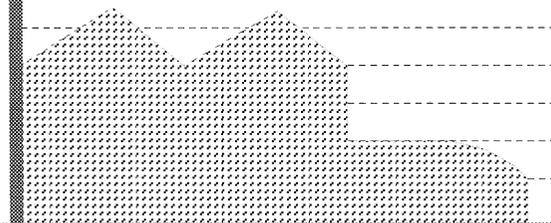


(仮称) 子ども図書館基本構想

平成29年3月 磐田市



目 次

はじめに

磐田市のとらえ方	2
子ども図書館構想に至る経緯	3
図書館の今	4
子育て支援の今	5
子どもを支えるための体制	6
図書館と子育て環境の現状のまとめ	7
子ども図書館で行うサービス	8
施設計画	9
子ども図書館のめざすもの	10
現況施設の課題	11
改修の基本コンセプト	12
平面計画図	13
基本構想イメージ図(アクソノメトリック)	14
基本構想イメージ図(施設内パース図)	15
工程の検討	16

本構想の正式名称は「(仮称)子ども図書館基本構想」であり、あくまでも「子ども図書館」という名称は仮称ですが、本構想内では、(仮称)を省き、「子ども図書館」と表現している箇所があります。

はじめに

「子育て・教育なら磐田」と誰もが実感できるまちづくり。本市では、この大きな目標に向け、平成25年度策定の『「磐田の教育」道しるべ』で、生き方や礼儀、思いやりなどの誰もが大切にしていきたいことを示し、平成27年度制定の「こども憲章」で、子どもたちが目指す姿を明確にしました。そして、次代を担う子どもたちを守り育てるための施策として、「磐田市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、子どもと子育て中の保護者の支援を進めるとともに、「磐田市子ども読書活動推進計画」において、子どもたちが自ら考える力や創造する力を身に付けられるよう、幼少期から本にふれる機会を提供していくことに取り組んでいます。

さて、子どもはかけがえのない存在ですが、同時に子育てについての悩みや心配事は尽きることがありません。近年では、悩みや心配事の多くは、様々な情報の中から自分なりの答えを見出すことができるようになりましたが、知識や経験のある職員に直接相談することができれば、より安心感と自信が得られるのではないのでしょうか。

今回、（仮称）子ども図書館の構想は、子どもと子どもをとりまく大人を共に支えていくため、図書館に子育て相談機能を融合させることを目指し策定を進めてきました。この基本構想に基づき、これまで以上に多くの皆様に親しまれ、足を運んでいただける施設となるように取り組んでいきます。

最後に、基本構想策定にあたり、貴重なご意見をお寄せ頂いた皆様に心より感謝を申し上げます。

磐田市のとりえ方

磐田市を分析した資料は数多くあります。その中から、「子ども図書館」計画を考える上で必要な事項をコンパクトにまとめてみました。

■地勢・交通と気候

- 静岡県西部に位置し、面積は163.08km²。
- 東西に11.5km、南北27.1kmと南北に長い形状。
- 北部は山地・中部は磐田原台地と天竜川沿平野・南部は天竜川氾濫平野の三層構造。南部は遠州灘に面す。北部以外は段丘以外はほぼ平坦な地形が特徴。
- 南北に長い市域を東西に横断する形で3本の鉄道・2本の高速道路・2本の国道及びバイパスが横断しており、東西の交通の便は良い。東海道線は2駅が市内にあり、新たに磐田駅東側に新駅が設置される。
- 気候は太平洋沿岸の温暖な気候で平均気温は16℃程度。年間降水量は1700mm程度の全体として穏やかな気候。ただし冬季は「遠州の空っ風」が吹く日も多い。
- ハザードマップによれば、天竜川と太田川の氾濫平野は全体が5m以下の浸水域として指定されている。



- 市域全体が概して平坦な地形にあることは、公共施設のサービスを考える上で重要な要素です。とりわけ、自転車の移動が容易になることから、サービス圏域を捉えやすくなります。
- 横断する交通網は広域の交通には有効ですが、市内での移動では幹線道路の整備網が重要です。歩行者から車の移動まで、どのように移動しているのかの把握が大切になります。

■市勢と都市づくり

- 市の一般会計は歳入歳出ともに約600億円の規模。
- 市税を含む自主財源比率は約6割を占める。
- 市債残高は減少傾向にあるも、まだ多いレベルにある。
- 財政力指数は近年低下しており財政状況は厳しい。しかし、実質公債費比率や将来負担比率は減少傾向にあり、財政健全化に向けた取り組みは効果を出している。
- 合併によりつくられた市だが、都市の構造は旧市町村の影響を残したまま発展してきた。都市計画マスタープランでは、これらの都市構造を東部市街地・農用地・工業用地・公共施設・文化歴史資産などのバランスの良い配置と拠点整備により、総合的な発展を促す計画である。
- 計画地は豊田地区拠点の北東側に位置するが、計画地のエリアには文化会館建設の計画があり、図書館を中心とした文化拠点として位置づけられる。



- 市の財政は厳しさを残しているものの、健全化へと大きく舵を切っています。
- 合併によって形作られた都市構造は容易には変化をしません。バランスの良い発展を促す計画がつくられ、インフラ整備に力を入れてきました。
- 財政状況の改善が優先的に行われてきましたが、都市拠点整備に対しては、バランスを重視した計画的な配置・整備が要求されます。

■人口と街の広がり

- 人口は17万人。平成17年までは25年間で20%の増加があったが、それ以降は微減傾向にある。
- 年齢構成では高齢化率は25%を超え、逆に若年層の減少傾向が続いていたが、15歳未満の人口減少については、割合がやや小さくなり、少子化の歯止めも見える。
- 平成17年の1市3町1村の合併により現在の市ができる。そのため、人口の分布も合併前の旧5市町村の都心部を中心に構成されており、スプロールも落ち着きつつある。
- 土地利用は北の森林地区・台地の茶畑などの農用地・平野部では水田が広がっている。市街地は台地と平野部に分散しており、農用地にも市街地は拡大している。
- 旧磐田市の市街地に人口の多くが集中して分布しているものの、中心地といえるような界限はなく、東海道の見付周辺にも町の中心地としての面影は乏しい。



- 人口は微減傾向にあり、とりわけ若年層の減少は市の将来の活性化に影響が大きく、子育て世代を大切にす市政の要因です。
- 市街地の分布も旧磐田市の人口が突出しているものの、中心性がなく比較的均一な市街地の成長をしてきた街といえるでしょう。
- サービスを考える上では、中心地の志向性がない分、サービス圏域を設定しやすく計画は有利な街です。

■公共施設整備

- 合併により各市町村が保有している公共施設は343施設、延床面積では52万㎡になり、市民一人当たり3㎡となる。
- うち教育施設は全体の43%に上り、築30年以上を経過する建物は全体の54%になり、老朽化が進行中である。
- 将来の人口減少が見込まれ、高齢化により生産年齢人口の割合が低下することが予測される中で、これらの公共施設をそのままの形で維持することは困難である。
- 今後は公共施設の抱える課題への迅速な対応や、公共施設の量と質の見直しを図ることが急務となっている。
- ポリウムの大きな教育施設はエリアごとの学府制が敷かれ、小中一体校への検討も進めている。
- 図書館や子育て支援施設は、市内の人口分布に対応してバランスよく配置されているものの、公共施設整備の方針からは、量と質の改善を求められていくことになる。



- 公共施設の現状での維持が今後ますます困難になる中で、図書館も量と質の転換を迫られています。豊田図書館の「子ども図書館計画」への転換もその延長にあると考えられます。
- 子育て支援施設は、数の上では充足しつつありますが、質の点では既存施設の一室に設置されているものもあり、より使いやすい新たな施設が望まれる故です。

■歴史となりたち

- 石器・縄文の時代より住まっていた遺跡がある。
- 古墳時代も栄え市内には600基の古墳が残されている。出土した三角縁神鏡は5枚を誇る盛況ぶりだった。
- 奈良時代には見付に国府が置かれ、後に国分寺も建立。遠江国の中心地として栄えた。
- 能の名演目として知られる熊野(ゆや)の里があった。
- 平安・鎌倉の時代にも遠江の中心であり、戦国時代には今川義元に治められる。
- 家康がこの地を治めるようになって、見付に築城を試みたが水が出ないことで断念。浜松に居城したが、見付には中泉御殿を造って合戦時などの合議の場としても使用。
- 江戸時代には東海道の重要な宿場(見付宿)として発展。
- 明治に入っては学制発布の直後に学校を設置。明治8年には旧見付小学校を建設開校した。建物は現存する最古の「木造洋風小学校校舎」で、国の史跡に指定。
- 戦後は東西交通の利便性から各種企業が進出し、企業城下として発展、現在の磐田市の活気を創りだしている。



- 温暖で豊かな地勢から、古くから人々が居住し、ながらく遠江の中心地として栄えてきた歴史があります。
- 江戸時代にも見付宿として栄え、東西交通の要衝の一角としての役割を担います。
- これらの栄えた歴史が、明治になって、早々の学校新設につながり、しかもその建物は大切に保って現在に至りました。
- 大都會のイメージはありませんが、誇るべき歴史上の中心都市としての宝を持っています。

●磐田市の現状のまとめ

- 古代より栄えてきた歴史の宝を数多く持っています。
- 5市町村の合併により南北に長い市が生まれましたが、交通の要衝・平坦な土地・温暖な気候などのいくつかの特徴によって、農業と工業の両立したバランスよく住み良い街ができあがりました。
- 人口分布は旧市町村の影響が残るものの、中心地への志向性が薄い分、公共サービスを考える上ではサービス圏域を設定しやすいなどの有利な特徴がみられます。
- 市の財政は厳しいものの改善の兆候がみられます。しかし、公共施設に関しては、合併による重複や老朽化などの課題があり、現状での維持管理は困難になっています。
- バランスの良い都市構造をつくり、総合的な発展をとげるための拠点整備やインフラ整備が計画され、計画地は文化拠点となることを期待されています。そのためには新施設整備は質的な転換を迫られています。

新施設となる「子ども図書館」の計画には下記のような検討を行う必要があります。

- 利用者の分布・サービス圏域の検証などの十分な検討を行い、サービスの有効性を把握しておきます。
- 現状の施設を徹底して分析し、新施設に必要とされる「質」とは何かを考え、新たなコンセプトを考えていきます。
- 財政状況を鑑み、LCCに配慮した計画を進めるとともに、全体のコストを抑えた施設計画を検討します。

子ども図書館構想に至る経緯

豊田図書館を「子ども図書館」に改修する計画は、様々な経緯を経て実現しました。その経緯と竣工までの流れをまとめます。

■構想の背景

- 市の少子化・人口減少がじわじわと進行している。
- 格差社会に移行する現象も顕在化しつつある。
- 子どもを育てる環境にも変化がある。
- 子育て相談件数が増加している。
- 市は子育て支援を強化して安心して子育てができる街に変え、人口増加・定着を図っている。
- 合併によってそれぞれの市町村にあった図書館のサービス圏域に変化が現れてきている。
- サービス網を再検討し、市域全体での新たなサービスの在り方を検討する必要がある。

■豊田市の施策と方針

- 市長の方針
「市民第一、現場第一、行動第一」を基本姿勢に、全職員の先頭に立ち、「誰もが元気で住みやすく」、「企業活動が活発で働く場所がしっかりと確保され」、「スポーツが盛んで文化の香り高く」そして「子育てなら豊田」と言っていただけの、全体のバランスが取れ、どこにも負けない「総合カナンバーワン」のまちを目指して市政運営
- 子育てに対して力を入れ、人口増加を目指している。IターンUターンも

■（仮称）「子ども図書館」検討経緯

- 平成27年度まで
- ・「豊田市公共施設白書」公表 市内5館の図書館サービス体制に疑問が出る
 - ・子どものための図書館構想が持ち上がる
 - ・研究のための視察（京都市、金沢市、流山市、市川市等子ども図書館の名称を持つ図書館）
 - ・28年度当初予算へ構想策定委託経費を計上
 - ・地元地区への説明（自治会連合会豊田支部役員会）
- 平成28年2月6月
- ・図書館協議会において（仮称）子ども図書館の検討・整備について説明
 - ・図書館協議会への概要説明
- 4～10月
- ・基本構想策定業務委託事業者選定（プロポーザル方式）準備～選考会（ヒアリング等）～最優秀者（随意契約予定者）決定
 - ・（株）都市環境設計を委託事業者として契約締結完了～委託開始
 - ・市民懇話会（第1回）開催
- 11～12月
- ・地元地区への進捗説明
 - ・利用者からの意見聴取（豊田図書館内に意見箱設置）
 - ・豊田中学・豊田南中学・城山中学教員との意見交換
 - ・市内5高校生徒へのアンケート調査
 - ・市民懇話会（第2回）
 - ・29年度当初予算へ設計費・工事費の計上
- 1～3月
- ・市民懇話会（第3回）
 - ・自治会連合会豊田支部役員への説明と意見聴取
 - ・図書館協議会へ報告
 - ・構想策定業務成果品の完成（平成29年2月末）

■全国の先進施設（子ども図書館関連）を視察（上段はH26年12月、下段はH27年5月に視察）

<p>こどもみらい館（京都府京都市）</p>  <p>子育て支援と相談を中心として、あそび・情報・図書館の機能を併せ持つ総合支援センター</p>	<p>松任こども図書館（石川県白山市）</p>  <p>白山市の中央図書館である松任図書館の2階に図書館の機能を併せ持つ総合支援センター</p>	<p>玉川こども図書館（石川県金沢市）</p>  <p>金沢市の中央館となる玉川図書館に隣接して設置された子供専用図書館</p>
<p>市川こどもとしょかん（千葉県市川市）</p>  <p>市川市の中央図書館内に独立して設置された児童としょかん。遊びのスペースも併設されている</p>	<p>おおたかの森こども図書館（千葉県流山市）</p>  <p>小中学校との複合施設として設置された小規模なこども図書館で児童書や子育て資料を配架</p>	<p>子ども未来館（東京都江戸川区）</p>  <p>子ども図書館のほかにも実験施設や工作施設などを併設した小学生を中心とした図書館</p>

ひとくちに「子ども図書館」といっても、子育て支援施設の図書コーナーや中央館の分室、複合活動施設などさまざまな顔があります。

■豊田ならではの市民サービスを模索して

- 図書館のサービス計画を見直し、子どもに特化した図書館サービスを行う計画に。
- 図書館サービスに加えて、子育て支援という機能を加え、図書館という誰でも気軽に利用できる環境を利用して相談機能を強化し、施設全体で「子育てをする環境」を整える。
- 市の子育て支援の拠点とするとともに、子どもの読書環境を整えて子どもの読書推進の拠点へ。
- 二つの拠点機能を融合して「子どものための豊田ならではの拠点づくり」を目指す。

■設計者の選定（プロポーザル方式）

全国10社のうちからヒアリング審査を経て都市環境設計を選定

■基本構想・基本計画（建築プログラムの作成）

■基本設計・実施設計・積算

■改修工事（建築・家具・外構・空調設備）

竣工・オープンへ